

令和7年度



港区立白金台幼稚園経営方針

園長 大橋 美都子

1 幼稚園教育目標

人間尊重の精神に基づき、幼児一人ひとりに、自分のよさや可能性を信じ、多様な人々と協働しながら豊かな未来社会を切り拓くことができる力の基礎を培うため、次の目標を設定する。

やさしい子 よく考える子 元気な子

2 目指す幼稚園像

一人ひとりが輝き、みんなが笑顔で生き生きと過ごせる
都会の中の『森の幼稚園』

こどもまんなか社会の実現は、子どもだけでなく周囲を取り巻く人々、社会全体の幸福によって成り立つものである。そこで本園は、

本園の特色である豊かな自然環境を生かした教育活動を推進する中で、幼稚園に関わる全ての人々（幼児、教職員、保護者、地域の方、外部講師、行政関係者等）の自己実現（＝ウェルビーイング*の向上）を図り、それによって教育目標を達成する園を目指す。

*身体的・精神的・社会的に幸せな状態。短期的で個人的な幸せではなく、より包括的で個人を取り巻く「場」が持続的によい状態であること。

(1) 幼児の自己実現を図る

○幼児の「これをしてほしい！」を引き出す。

幼児の好奇心を刺激し、主体的な関わりを引き出す園庭環境、室内環境を工夫し、探究心に応える活動を幼児と共につくり出す。

○幼児の声を聞き、大切にすること。

教師が願いをもって環境を構成し、活動を計画するように、幼児にも空間的・時間的環境への願いや実現したいことがある。遊びに限らず、園生活の全ての場面で、幼児が主体的に考え、提案し、教師や友達と共に実現する保育を実践する。

○誰一人取り残さず、その子らしさが輝く園生活を保障すること。

一人ひとりのその子らしさや持ち味が、友達、教職員、保護者等、幼稚園に関わる様々な人々に理解され、大切にされ、生かされる保育をデザインし、実現する。

○ウェルビーイングの深化を促す。

「今が楽しい」という個人の短期的な幸せから、「友達や身近な人の幸せを願う」「自分たちの幼稚園や地域、世界をよりよいものにしていきたい」という共に生きる人々の持続的な幸せを願い、追求しようとする意識へと幼児の思いが深化していくようにする。具体的には、幼稚園修了前の幼児が以下のことを実感し、実践できるようになることを目指す。

- ♥ みんなが笑顔になれることを考え、実現するのは楽しい。
- ♥ 困ったことがあっても、身近なことは自分たちで変えられる、解決できる。
- ♥ 一人ではできないことでも、仲間と考えを出し合い力を合わせればできる。

(2) 教職員の自己実現を図る

○理想を追求する。

教師自らが学びたいことを学ぶことができる環境を整え、一人ひとりの自己課題の解決を促進する。教師が自己の課題を自覚するとともに、教師間で悩みを共有し、解決策を共に考え、日々の教育実践を通して、一人ひとりが「自分の理想の教師像」に近づくことができるようにする。

○心理的安全性とチーム意識を確立する。

職場の心理的安全性（互いに話しやすい関係性）を確保し、全ての教職員が各々の持ち味、経験等を生かして本園の教育に関わることに喜びややりがいを感じ、チームとしてそれぞれの役割を果たし、協働し、生き生きと仕事に取り組めるようにする。

○各学年複数学級であることを生かす。

同学年を組む教師2名で、互いの学級の保育を担当する、合同保育を行うなどして学年の幼児全員の多面的な理解につなげるとともに、教材準備等の時間の創出や保育力の向上、チーム意識の向上を図る。

(3) 保護者、地域の方、外部講師、行政関係者等の自己実現を図る

○園内外の教育力を結集する。

保護者、地域の方等には、様々な価値観、個性、能力をもった人たちがいる。多様な人々が互いに自己を発揮し、違いを受け止め、よさを認め合い、協働する機会を日々の教育活動やPTA活動、行事等で作くり出す。幼児の健やかな成長（＝教育目標の達成）という目的を共有し、それぞれの力を発揮してもらえようとする。

○幼稚園に関わることとウェルビーイングを結び付ける。

幼稚園に関わる全ての人々が、「自分の力が生かされた」「関わってよかった」「また役に立ちたい」と思えるよう、幼児の姿や成長を発信し、感謝を伝えるようにする。また、子育てに悩む保護者（未就園児保護者含む）への助言やサポート保育の実施等を通して、保護者の安心や自己実現の支援につなげる。

3 中期的経営目標と方策

(1) 主体的・対話的で深い学びの実現

本園の特色である自然豊かな園庭環境を生かし、四季折々の自然・社会の営みを教育活動に取り入れながら、主体的・対話的で深い学びを実現する。

【方策】

- 保育の基本的な考え方を全教職員で共有する機会を意図的に設ける。
教師との信頼関係を基盤に、幼児が主体的に園生活に取り組む中で、新しい物事との出会いに好奇心を広げ、願いをもち、挑戦し、試し、工夫し、探究し、実現していく過程を大人が支え、励まし、共感することを大切にする。そのことを、職員会議、園内研究会、週案会等で繰り返し話題にして、教育活動や行事の内容・プロセスを見直し、改善を図る。
- 園庭環境の見直しと改善、「拠点」を核とした遊びの充実を推進するとともに、環境教育の充実を図る。
幼児の興味・関心を引き出し、思いに応えられる環境を、幼稚園に関わる全ての人と共につくり出す。また、幼児が園庭の自然を愛し、大切にすることがもてる教育活動を展開し、SDGsと結び付ける。併せて、園庭・園舎内の環境美化を図り、幼児の美しさに対する感性を育む環境づくりを推進する。
- 教師全員が「ためになる」「役に立つ」と実感できる園内研究会を推進する。
園内研究会を「教育の夢を語る場」とするとともに、課題が異なる教師がそれぞれの課題解決を図りながら、園の教育課題の解決につながるように、ショート保育観察や協議会等、研究の内容や方法を工夫する。

(2) 小学校入学前教育の充実

小学校教育との学びの連続性を考慮し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえて、3学年それぞれの時期にふさわしい教育活動を推進する。

【方策】

- 年間指導計画の共有と見直しをする。
週案会や園内研究会等、3学年の教員が協議する場で年間指導計画を確認し、各学年各期の見通しや反省を共有する。
- 非認知能力の育成についての理解と実践を推進する。
研修会や書籍等で各教員が得た知見を共有して園全体で理解を深め、保護者、地域、他校種の教員等に説明できる力を付ける。
- 幼児に協同性や道徳性の芽生えを培う保育を充実させる。
幼児が学級や園の友達、園に関わる様々な人と出会い、互いに刺激を受け合い、自分のよさと相手のよさを知り、共に生活することや互いの持ち味を生かして共通の目的を成し遂げることの喜びを味わえるような保育を実践する。
- 近隣教育施設との連携を一層推進する。
保幼小合同研修会やアカデミー研究会等での学びを生かした実践を行う。直接交流とともに、ICT機器を活用したオンラインでの交流や連携を工夫し、5歳児が小学校に進学したときにも主体的に行動できるような力を身に付けられるようにする。

(3) 社会に開かれた教育課程の実現

家庭・地域社会に、様々な発信方法で園の教育内容を積極的に伝え、連携・協働した教育活動の充実と、日常的な評価と学校評価等を基にした教育課程の改善を図る。

【方策】

○園の教育に対する保護者の理解を促進する。

保護者会・懇談会の持ち方を工夫し、園の教育活動への理解促進と、保護者同士の交流、情報・意見交換等の活性化を図る。また、保育参観等の機会を生かし、様々な個性をもつ幼児がいて、関わり合って育ち合うことを伝え、一人ひとりを生かす教育への理解を促す。

○日常的な評価・反省を、教育活動の改善に生かす。

P T Aと連携し、保護者、地域の方から教育活動に対する意見・感想を日常的に収集し、学校評価まで待つことなく年度内に改善できることは随時改善していく。

○学校運営協議会と協働で、教育活動の充実を図る。

学校運営協議会を立ち上げ、カリキュラム・マネジメントに生かすとともに、委員の意見や人脈等を基に、日常の保育や行事等で保護者や地域人材のもつ教育力を発揮してもらう機会を積極的に増やしていく。

4 令和7年度重点目標

(1) 国際理解教育を充実させる

園内外の教育資源を生かした取組を推進し、幼児の国際理解の意識の芽生えを培う。

【具体的な取組】

○身近な人や物事との関わりを通して、様々な文化に触れられるようにする。

季節の行事を通して日本の伝統文化に親しむとともに、外国にルーツをもつ幼児との日常的な関わり、保護者による外国の文化等の紹介や交流、「ワールドコーナー」の掲示や展示などから、様々な国や地域の言葉・文化に関心をもったり、自分たちの生活に取り入れたりできるようにする。

○幼稚園N Tと連携した日常的な取組の充実を図る。

昨年度の評価・反省や他園の取組、担当者会での情報等を参考に、N Tと幼児の遊びの中での自然な関わりと、学級活動での関わりが相乗効果を発揮するような取組を検討し、実践していく。保育後の打合せ、評価・反省を大切にし、翌日以降の取組につなげていく。

(2) I C Tを活用した学びを充実させる

幼児の直接体験を重視しながら、I C Tの利点を生かした活用の工夫を模索し、主体的、対話的で深い学びの実現につなげる。

【具体的な取組】

○とにかく使う、試すことを積極的に推奨する。

昨年度に引き続き、P D C AサイクルのD oから始まる実践を尊重し、I C T機器を保育にどれだけ取り入れられるのかを試し、その評価を行い、有効な活用方法を見いだす。

○ICT活用担当を園務分掌に位置付け、組織的に活用を推進する。

担当者が中心となって情報収集をするとともに、職員会議、園内研究会、週案会等で活用のアイデアを出し合い、3、4、5歳児それぞれでの実践を促す。子ども自身がICT機器を使用した新たな取組についても、引き続き検討する。

(3) 園の教育の魅力発信と、地域の幼児教育のセンター機能をさらに充実させる

園に関わる全ての人に本園の教育への理解や協力を得るため、また、区民に選ばれる園となるために情報発信を充実させるとともに、地域の未就園児やその保護者が安心して過ごすことができる場として園を開放したり、通常の保育時間終了後に子どもを安心して預けられる場としてサポート保育を実施したりし、区立幼稚園としての使命を果たす。

【具体的な取組】

○保護者会や懇談会の持ち方を工夫し、参加してよかったと思える会にする。

幼児の活動の様子を写した映像とともに教育内容について解説することに対する保護者の期待は大変高い。引き続き、園からの発信を分かりやすく行い、保護者が知りたいことが分かるようにしたり、保護者同士が気軽に情報や意見を交換したりできるようにする。

○園・学年だより、ホームページ・X・アプリによるドキュメンテーション等による発信を工夫する。

本園の教育の価値や魅力を、写真等を用いて分かりやすく伝えることで、園に関わる全ての人から信頼と積極的な協力を得られるようにするとともに、地域の未就園児保護者に、本園への入園を検討してもらえるようにする。

○未就園児の会の内容をより充実させるとともに、発信方法についても工夫する。

講師やボランティアの方と協力して、内容の充実を図るとともに、活動の様子をホームページ等で発信したり、近隣区有施設に管理職が出向いて紹介をしたりするなどして、参加者が増えるようにする。

○安心・安全で、幼児の生活リズム等を考慮したサポート保育を実施する。

利用者数が多い中でも、幼児が安心して安全に過ごせるように場の使い方や活動を工夫する。活動内容や運営方法を工夫し、異学年の交流やその日の出来事の振り返り等、サポート保育の時間にも園の教育につながる体験ができるようにして、保護者の安心や満足にもつながるようにする。

(4) 教職員の働き方改革を推進する

教育活動の円滑な推進のため、教職員の心身の健康の保持を目的に、働き方改革を着実に進める。

【具体的な取組】

○教職員からアイデアを募って、効果を実感できる取組を推進する。

引き続き、定時退勤や平日の年休取得を推奨し、それを実現するために管理職や同学年の教師による補教、ノンコンタクトタイムの設定、教職員の役割分担の見直し等の取組を進める。教職員の負担感を把握するほか、アイデアを募って実践し、効果を確認していく。加えて、長期休業期間中のリモートワークを推奨する。